

令和4年度 市政懇談会



市政懇談会での意見

市政懇談会で寄せられた意見を抜粋してお知らせします。

庄原ファンクラブの創設

Q 庄原ファンクラブの会員は市民もなれるのか。

A 市民や市外在住者問わず、誰でもなれることを想定しています。

Q 庄原ファンクラブの事務局は、各自治振興区が担うのか。

A 庄原ファンクラブは本市が事務局となり運営を行っていきます。

Q 庄原ファンクラブの企画は誰が考えるのか。

A 官民連携ワークショップを実施し、さまざまな企画や特典などを検討しています。また市民の皆さんにも、さまざまな意見をいただきたいと考えています。

Q 官民連携ワークショップは、どのようなメンバーなのか。

A 市内の各地域や関係団体から推薦をいただいた人、県立広島大学の学生など21人で構成しています。

Q 庄原ファンクラブの会員になると、何か特典があるのか。

A 本市の情報が届くほか、会員相互の交流事業、特産品が当たる抽選会など、会員になってお得、楽しいと思ってもらえる企画を検討しています。

Q 会員相互の交流は、どのようなことを想定しているか。

A コロナ禍のため、まずはオンラインでの交流を考えています。落ち着いてくれば、本市に来ていたり、都都市部に出向いたりして、交流を深めたいと思っています。

Q 庄原ファンクラブによる関係人口の創出

Q 庄原ファンクラブは、どの年齢層を一番のターゲットに考えているのか。

市が行う政策や事業に対し、市民の皆さんから意見を伺う市政懇談会を10月17日～12月1日に、市内9会場で開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりの開催となった今回は、感染症対策を徹底するため、規模を縮小し、参加者を限定しての開催となりました。

本年の市政懇談会では、人口減少対策である「関係人口の創出」について懇談・意見交換を行いました。

参加者の皆さんには、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。皆さんから寄せられた提案や意見などは、今後の施策に生かしていきます。

懇談テーマの概要

本市の最重要課題である人口減少対策を推進するため「これからの関係人口の創出について」を知ってもらう・来てもらう・選んでもらう」をテーマに懇談を行いました。

市は人口減少を抑制するため、令和3年に組織横断的に人口減少に直接効果のある施策や、10年先のまちづくりにつながる施策を検討する「人口減少対策戦略本部」を設置しました。

人口減少対策戦略本部で協議を重ね、その内容を基に、令和4年は人口減少対策につながる施策を実施していきます。

今回の市政懇談会では、その施策の

いるのか。

Q 人口ビジョンで、24～35歳の社会増減の均衡を目指しており、その年齢層を主なターゲットに考えています。

Q 庄原ファンクラブの会員の目標を、当面千人とするとのことだが、目標の人数が少ないのではないのか。

A 目標としている千人は、市外の会員を千人としています。また、その千人は、特に本市に関わりの深い人に入ってもらいたいような仕掛けをしていきたいと考えています。

Q 自治振興区には、どのような取り組みを期待しているのか。

A 家族や友人へ呼び掛けをしていたり、空き家の片付けや草刈りなど、地域の課題を一緒に解決する手伝いをしてもらいたいと考えています。

Q 市外の人が庄原市にどういうイメージを持っているのか分かるか。

A 人によって、本市の「推し」はさまざまだと思います。会員になった市外の人が、私たちの知らない本市の魅力に気付く、それを教えてもらうことで、新たな「推し」に気付くという効果も、庄原ファンクラブに期

1つである人呼び込むための仕組みづくりとして「庄原ファンクラブ」による「関係人口」の創出について意見交換を行いました。

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様にかかわる人々を指します。

本市では総合的な施策により人口減少対策を進めつつ、地域づくりの担い手となる人を「関係人口」として確保し、活力ある地域を維持し、本市への関与や関心を深めてもらい、いずれは定住人口へつなげる事を目指しています。

庄原ファンクラブ

庄原ファンクラブは、市民や市に縁のある人、庄原を応援したい人などを会員として募集し、会員相互の交流を図ることで、庄原ファンの獲得やファンと市民をつなぐことを目的に創設します。

庄原ファンクラブを中心に、交流人口や関係人口を増加させ、活力ある地域の維持と定住者の増加を目指します。

会員には、本市からの情報を届けるとともに、活動に参加した人のファンクラブの会員カードに、ポイントを付与することなどを検討しています。

また、官民ワークショップなどでアイデアを集め、会員が楽しいと感じられる企画を打ち出していく予定です。



待っています。

Q 情報発信が得意な若い世代の力を借り、どんどん発信してもらってはどうか。

A 庄原ファンクラブでは、SNSを活用し、市内外に広く知ってもらおう活動をしていきたいと考えています。会員同士が交流できるSNSのプラットフォーム（基盤）を整備し、SNSを通じて情報を拡散してもらい、関係人口を増やしたいと考えています。

Q 市内には県立広島大学があり、毎年多くの学生が入学している。その学生が卒業後、庄原市に住みたいと思えるような施策があれば、人口流出が無くなるのではないのか。

Q 庄原ファンクラブでは、官民連携ワークショップのメンバーに県立広島大学の学生も参加しています。その中で、学生の意見を参考に、本市に残ってもらえる施策を議論していきたいと思います。

Q 庄原ファンクラブを作っても、定住人口につながる前に、どんな人口が減少してしまうのではないのか。

A 現在も取り組んでいる人口減少対策を進めながら、庄原ファンクラブを活用し、関係人口を増やしていきたいと考えています。本市を応援してくれる人を確保することで、活力ある地域を維持していきたいと考えています。

人口減少対策

Q 人口減少対策は、市の組織全体で取り組む必要があると考え、他部署との連携はできているのか。



A 市は令和3年度に「人口減少対策戦略本部」を設置し、人口減少対策に取り組んでいます。メンバーには各部署から職員を参集し、それぞれの部署が行っている人口減少の取り組みや課題などを共有しています。

Q 市の人口減少対策として、新たに若者向けの市営住宅の建設を考えているか。

A 現時点では、新たに市営住宅の建設の予定はありませんが、市全体の住宅供給量や市民ニーズを再確認し、市営住宅の建替えなどを検討していきます。

Q 地域では、年々空き家が増えていく。市には空き家の問題を相談する部署があるか。

A 自治定住課で空き家の相談を受け付けています。空き家を紹介する「しょうばら空き家バンク」の制度もあるので、ご相談ください。

最後に

懇談会の最後に、木山市長は次のとおりまとめました。

市は、さまざまな施策を実施していますが、これらのすべては人口減少対策につながるものです。人口減少対策には特効薬がありません。やれることはすべてやる、できることはどんどん進めていくという姿勢で、これからも取り組んでいきます。

市長就任以来、庄原に関わりのある人が「やつぱり、庄原がいちばんええよのお」と思えるまちづくりを行うため「庄原いちばんづくり」に取り組んでいます。

「地域産業のいちばん」「暮らしの安心のいちばん」「にぎわいと活力のいちばん」の3つを柱に取り組んできましたが、この「いちばん」は、他と比べていちばんというのではなく、「しあわせ」や「安心」、「達成感」や「満足感」といった、心の「いちばん」を実感してもらい、私たちが本心に頑張れば、すばらしいまちづくりができるのではないかと、現在も取り組んでいます。

組んでいます。

特に力を入れたのは、一次産業である、農業、畜産業、林業です。

農業では、こだわり米のブランド化を支援し、全国的な米コンテストで高い評価を受けるなど、庄原の米ブランドの評価を高まっています。

畜産では、比婆牛の復活に取り組みました。現在では、庄原といえば比婆牛、比婆牛といえば庄原という評価をもらっています。

林業では、本年度、株式会社フォレストワンと工場の立地協定を締結することができました。この誘致により、庄原材のブランド化を進めることができます。

庄原ファンクラブは、これらの庄原の宝をいろんな人に知ってもらいたいという思いで始めました。この事業は市民の皆さんと協力しながら行っていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

